

別表3

畿央大学 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

I. 畿央大学

畿央大学では、建学の精神である「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」を教育の基本理念に置き、高潔な人格と幅広く高度な専門的知識・技術を身につけ、以て地域社会および国際社会に貢献できる有為な人材を育成するために必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。教育課程編成・実施の方針は以下のとおりである。

1. 4年間で8セメスターに分け、セメスターごとに評価をすることで、体系的に修得させる。
2. 教育課程を大きく教養科目群と専門科目群に分ける。
3. 教養教育において生命の尊さやそのあり方について基本的な認識と価値意識を培うため、「生命倫理」を全学必修科目とする。
4. 専門科目群は「専門基礎科目」「専門科目」からなり、それぞれの学科の人材養成の目的を達成できるよう体系的に科目を配置する。
5. 専門科目群の理解を深め実践力を養うため、実験・実習・演習を重視し数多く配置する。
6. 理論と実践の一体的理解を図るため、学外実習・インターンシップ・ボランティア活動を充実させる。
7. 長期休暇を利用し、フィールドワークや集中講義を実施する。

II. 健康科学部

畿央大学健康科学部では、学位授与の方針に基づく教育上の目的を達成するために、必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。教育課程編成・実施の方針は以下のとおりである。

1. 生命の尊厳について学び、豊かな人間性と確かな倫理観を養うために、「生命倫理」を必修科目とする。
2. 協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを育むために、「ベーシックセミナー」やチーム医療に関する科目を設置する。
3. 豊かな教養と幅広い視点を身につけることができるよう、人文、社会、言語、情報、自然、健康、運動など広範な領域にわたる教養科目を設置する。
4. 人間の身体と健康についての科学的視点や専門的知識・技術を修得するために、各学科の人材養成の目的に応じて専門基礎科目および専門科目を体系的に配置する。
5. 健康科学分野に関わる高度専門職業人として求められるプレゼンテーションスキルを身につけることができるよう、「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とする。
6. 国際化に対応する知識・理解力を身につけるために、外国語（英語）科目を体系的に配置し、海外研修の機会を充実させるとともに、日本社会および国際社会に関する基礎知識について学ぶための教養科目を設置する。
7. 生涯にわたって学び続ける能力と姿勢を形成するための科目を設置する。
8. 実践的な問題解決能力を身につけることができるよう、実験・実習・演習および学外実習・インターンシップを充実させ、ボランティア活動を支援する。

Ⅲ. 健康科学部 理学療法学科

畿央大学健康科学部理学療法学科では、学位授与の方針に基づく教育上の目的を達成するために、健康科学部の教育課程編成・実施の方針を基礎としつつ、必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。本学科の教育課程編成・実施の方針は以下のとおりである。

1. 医療従事者としての倫理観を養い、人間の尊厳や生命への畏敬について学ぶために、「生命倫理」を必修科目とする。
2. 協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを育むために、「ベーシックセミナー」やチーム医療に関する科目を設置する。
3. 豊かな教養と幅広い視点を身につけることができるよう、人文、社会、言語、情報、自然、健康、運動など広範な領域にわたる教養科目を設置する。
4. 医学的な基礎知識に基づいて理学療法学に関する深い専門的知識と高い技術を修得できるよう、専門基礎科目と専門科目を充実させ、それらを水準別・領域別に、基礎から応用へと体系的に編成する。
5. 高度専門職業人として求められるプレゼンテーションスキルを身につけることができるよう、「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とするとともに、その他の科目においても学生によるプレゼンテーションの機会を積極的に設ける。
6. 医療をめぐる問題の国際化に対応する知識・理解力を身につけるために、外国語（英語）科目を体系的に配置し、海外研修の機会を充実させ、日本社会および国際社会に関する基礎知識について学ぶための教養科目や英語論文講読に関する科目を設置する。
7. 生涯にわたって学び続ける能力と姿勢を形成するために、「ベーシックセミナー」、「キャリア形成セミナー」、「卒業研究」等の科目を設置する。
8. 理学療法士としての専門性を土台とした実践的な問題解決能力を身につけることができるよう、実習・演習科目を充実させるとともに、それらを理論に関する科目と有機的に関連づけて配置する。

Ⅳ. 健康科学部 看護医療学科

畿央大学健康科学部看護医療学科では、学位授与の方針に基づく教育上の目的を達成するために、健康科学部の教育課程編成・実施の方針を基礎としつつ、必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。教育課程編成・実施の方針は以下のとおりである。

1. 人間の尊厳や生命への畏敬について理解し、人の痛みや健康への願いを汲み取ることができる感性を養うために、「生命倫理」を必修科目とする。
2. チーム医療や高度医療、地域の訪問看護などの場面で求められる協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを育むために、「ベーシックセミナー」や「チーム医療ふれあい実習」、「へき地医療体験実習」等の必修科目を充実させる。
3. 豊かな教養と幅広い視点を身につけることができるよう、人文、社会、言語、情報、自然、健康、運動など広範な領域にわたる教養科目を設置する。
4. 看護医療分野に関する高い専門性と臨地に役立つ実践力を修得できるよう、専門基礎科目と専門科目を充実させ、それらを水準別・領域別に、基礎から応用へと体系的に編成する。
5. 高度専門職業人として求められるプレゼンテーションスキルを身につけることができるよう、「情報処

理演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とするとともに、その他の科目においても学生によるプレゼンテーションの機会を積極的に設ける。

6. 医療をめぐる問題の国際化に対応できる知識・理解力を修得できるよう、外国語（英語）科目を体系的に配置し、海外研修の機会を充実させるとともに、日本社会および国際社会に関する基礎知識について学ぶための教養科目や「国際看護学Ⅰ・Ⅱ」、「外書講読」等の専門科目を設置する。

7. 生涯にわたって学び続ける能力と姿勢を形成するために、「ベーシックセミナー」、「キャリア入門セミナー」、「卒業研究」等の科目を設置する。

8. 看護医療に携わる者としての責任感や専門性を土台とした実践的な問題解決能力を身につけることができるよう、実習・演習科目を充実させるとともに、それらを理論に関する科目と有機的に関連づけて配置する。

V. 健康科学部 健康栄養学科

畿央大学健康科学部健康栄養学科では、学位授与の方針に基づく教育上の目的を達成するために、健康科学部の教育課程編成・実施の方針を基礎としつつ、必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。教育課程編成・実施の方針は以下のとおりである。

1. 生命に対する深い畏敬の念と豊かな人間性を育むために、「生命倫理」を必修科目とする。

2. 協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを育むために、「ベーシックセミナー」等の科目を設置する。

3. 豊かな教養と幅広い視点を身につけることができるよう、人文、社会、言語、情報、自然、健康、運動など広範な領域にわたる教養科目を設置する。

4. 管理栄養士など、食や栄養に関する分野の高度専門職業人に要求される深い専門的知識と高い技術を修得できるよう、食品科学と栄養学に関する必修科目・選択科目を充実させ、それらを領域別に、基礎から応用へと体系的に編成する。

5. 臨床栄養、スポーツ栄養、食品開発など学生の希望進路に応じたコース別の推奨科目を設置し、それらを体系的に編成する。

6. 食や栄養に関する分野の高度専門職業人として求められるプレゼンテーションスキルを身につけることができるよう、「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とするとともに、実験・演習・実習科目において学生によるプレゼンテーションの機会を積極的に設ける。

7. 学んだ知識・技術に対する理解を深めるために、「臨地実習」など学外実習の機会を充実させる。

8. 生涯にわたって学び続ける能力と姿勢を形成するために、「ベーシックセミナー」、「キャリア形成セミナー」、「卒業研究」等の科目を設置する。

9. 食や栄養に関する専門性を土台とした実践的な問題解決能力を身につけることができるよう、実験・実習・演習科目やインターンシップを充実させるとともに、それらを理論に関する科目と有機的に関連づけて配置する。

VI. 健康科学部 人間環境デザイン学科

畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科では、学位授与の方針に基づく教育上の目的を達成するために、健康科学部の教育課程編成・実施の方針を基礎としつつ、必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるよ

うに編成している。教育課程編成・実施の方針は以下のとおりである。

1. すべての人間に対する深い畏敬の念を持ち、デザインに携わる者としての倫理観を身につけることができるよう、「生命倫理」および「ユニバーサルデザイン」を必修科目とする。
2. 協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを育むために、「ベーシックセミナー」や「プロジェクトゼミ」を設置する。
3. 人体の構造・機能や人間の生活全般についての科学的認識を持つことができるよう、関連する領域の専門基礎科目を設置するとともに、人文、社会、言語、情報、自然、健康、運動など広範な領域にわたる教養科目を設置する。
4. 建築・デザイン分野に関する総合的な知識と専門的視点を修得できるよう、学生の希望進路に応じた選択科目を充実させ、それらを専門基礎科目および専門科目に分けて体系的に編成する。
5. 高度専門職業人として求められるプレゼンテーションスキルを身につけることができるよう、「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とするとともに、自らの意見を正確に相手に伝えることができるよう、その他の科目においても学生による発表の機会を積極的に設ける。
6. 自らの感性や創造力を生涯にわたってみがき続けることができるよう、「プロジェクトゼミ」や「卒業研究」等の科目を設置する。
7. 建築・デザイン分野に携わる者として、これからの時代に必要とされる環境を自ら創り出していくための分析力や創造力を身につけることができるよう、実習・演習科目を充実させ、理論に関する科目と有機的に関連づけて配置する。

VII. 教育学部 現代教育学科

畿央大学教育学部および同学部現代教育学科では、学位授与の方針に基づく教育上の目的を達成するために、必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。教育課程編成・実施の方針は以下のとおりである。

1. 生命への畏敬の念や教育に携わる者としての倫理観、子どもに対する理解・愛情を育むために、「生命倫理」や「教育原理」を必修科目とし、見学実習に関する科目を設置する。
2. 協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを育むために、「ベーシックセミナー」等の科目を設置する。
3. 現代の教育課題に対する理解と豊かな教養を身につけることができるよう、オムニバス講義「現代教育論」を設置するとともに、人文、社会、言語、情報、自然、健康、運動など広範な領域にわたる教養科目を設置する。
4. 教育学の諸理論、子どもの発達、各教科・領域の内容や指導法、学校保健等についての専門的な知識を修得できるよう、専門分野および学生の希望進路に応じた選択科目を充実させ、それらを専門基礎科目および専門科目に分けて体系的に編成する。
5. 高度専門職業人として必要な情報収集・処理能力やプレゼンテーションスキルを身につけることができるよう、「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とするとともに、その他の科目においても学生によるプレゼンテーションの機会を積極的に設ける。
6. グローバル化時代への対応や特別な支援を必要とする子どもへの対応といった新たな教育課題を理解し、それらに適切に対処する力を身につけることができるよう、外国語（英語）科目の体系的な配置、日本

社会および国際社会に関する基礎知識や異文化コミュニケーションについて学ぶための科目の設置、海外研修の機会の提供を図るとともに、「特別支援教育入門」を必修科目とするなど特別支援教育に関する科目を充実させる。

7. 授業や保育、養護の内容・活動に関する自律的な思考力、判断力、実践力、マネジメント力を養うために、「実践演習」等の実践・指導法に関する科目を充実させるとともに、それらを理論・基礎に関する科目と有機的に関連づけて配置する。

8. 生涯にわたって学び続ける能力と姿勢を形成するために、キャリア関連セミナーや「卒業研究」等の科目を設置するとともに、読む力・書く力を育成するためのプログラムを入学前から卒業に至る長期的スパンをもって編成する。

9. 修得した専門的知識と技術を応用して教育に関する今日的課題を解決する力を育成するために、実習・演習科目やインターンシップを充実させる。

VIII. 助産学専攻科

助産学専攻科は、本学の「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」の建学の精神を基盤に、高度な専門知識や、助産ケアを提供するための技術を身につけ、生命誕生の瞬間に立ちあえる喜びと誇りをもち、人として美しく調和が取れる助産師を育成するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

1. 助産学基礎領域では、女性のライフサイクルや乳幼児の成長発達に必要な支援、助産学研究など助産師としての基礎知識を学び、助産師としてのアイデンティティについて考察する。

2. 助産学実践領域では、助産師に必要な診断とケアの実践能力を身につける。

3. 助産学関連領域では、健康科学の関連領域から食育、住環境、脳機能の観点で助産に役立つ知識を学び、医療職種間の連携についても知識を深める。

IX. 臨床細胞学別科

臨床細胞学別科は、本学の「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」の建学の精神を基盤に、細胞診断学に関する専門的知識や技術を身につけ、がん医療の向上に貢献できる細胞検査士を養成するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

1. 社会に役立つ医療従事者としての人間性と教養を育む。

2. 臨床細胞診断学に関する基礎的、専門的な知識の理解力を育む。

3. チーム医療の重要性を体感し、病態を踏まえた細胞診断技術を育む。

4. 科学としての細胞診断を実践し、深化させることができる能力を育む。